

令和2年度 大山町決算の状況

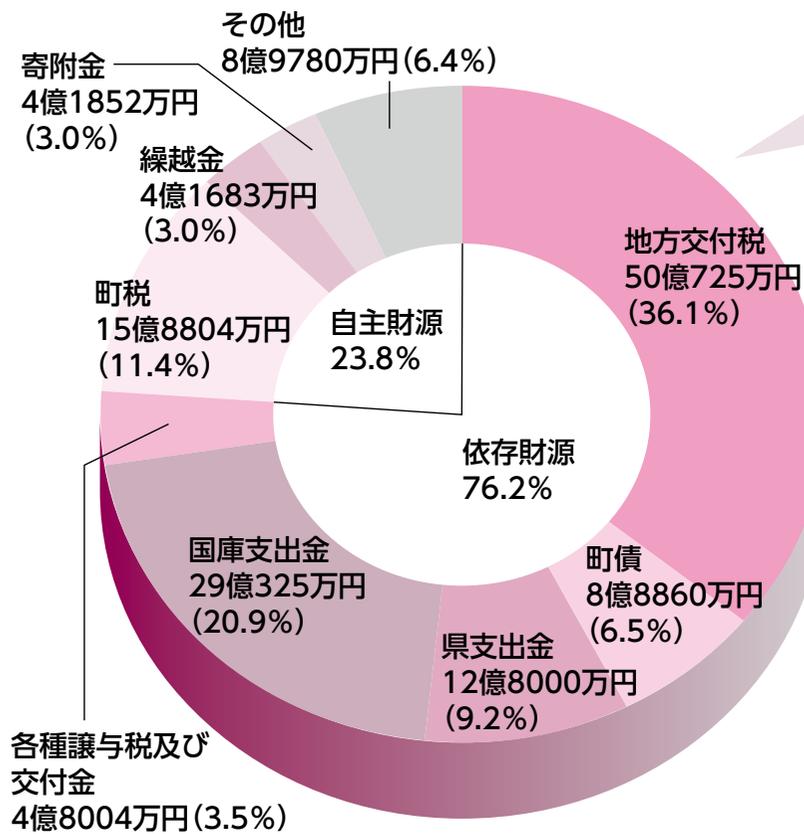
令和2年度の一般会計、13の特別会計、水道事業会計、4つの財産区特別会計の決算の状況をお知らせいたします。

一般会計の決算額は、歳入が138億8033万円、歳出が133億8082万円となり、令和3年度への繰越事業の財源を差し引いた実質収支は3億8070万円の黒字となりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に係る事業実施の影響により、歳入歳出ともに過去最大の決算規模となりました。

一般会計歳入

歳入合計 **138億**円



■歳入の説明

歳入決算額は138億8033万円で、前年度と比べて18.8%の増となっています。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金や特別定額給付金事業補助金の皆増による国庫支出金の増加が主な要因となっています。

このうち町税など自主財源は全体の23.8%、地方交付税などの依存財源は76.2%を占めており、町の歳入は地方交付税などに大きく頼った構造となっています。

町税、ふるさと納税などの寄附金、諸収入、使用料及び手数料などといった自主財源の確保が町の課題となっています。

土木費

道路・住宅整備などに要する経費

6億8264万円

衛生費

ごみ、し尿、病気予防などに要する経費

9億7833万円

商工費

商工業振興、観光振興などに要する経費

4億6389万円

消防費

消防・防災対策に要する経費

2億9358万円

その他

災害復旧費、議会運営などに要する経費

1億2922万円